

令和6年度 第2回図書館協議会議事録

1 開催日時 令和6年8月8日(木) 午後2時～午後4時

2 開催場所 榛原文化センター2階 集会室1

3 出席者

【牧之原市図書館協議会委員】

鈴木 善彦  
増田 曜子  
岩崎 陽子  
大石 武晴  
佐藤 寛  
武田 てるみ  
水嶋 みゆき

【事務局】

教育長 橋本 勝  
教育文化部長 竹内 英人  
社会教育課長 佐々木 悟  
図書係長兼図書館長 八木 いづみ  
主任 水野 秀信  
主査 望月 安里  
会計年度任用職員 芹澤 芳里

4 傍聴者 1名

5 議題

【報告事項】

- (1) 文化の森図書館「いろ葉」開館後の状況について
- (2) 「いろ葉」利用者アンケートの結果について
- (3) 牧之原市子ども読書活動推進計画の改定について

## 6 内 容（要点記録）

### 教育長挨拶

連日猛暑が続いている。局地的にはゲリラ豪雨で被害が出るなど環境が変わってきた。オリンピックがパリで行われているが選手の活躍する姿は子供にとって憧れとなっている。いろ葉が開館し、快適な空間で市民が本に触れながら生活をされていると感じる。今回も報告事項を受けてのご意見をいただきたい。

### 【報告事項】

#### 文化の森図書館「いろ葉」開館後の状況について

##### ◎事務局説明要旨

- ・4月21日の開館式は来賓40名を迎えて実施、来館者も1,000人を超えた。榛原高校生が、吹奏楽の演奏やオープニングイベントを行った。
- ・開館後3カ月間の利用統計は令和4年度と比較して貸出冊数が約2倍、予約冊数が約1.5倍になった。来館者数も図書館利用者数は約3倍程度に増加している。
- ・文化の森図書館主催のイベントなどでは、図書館見学やリサイクル雑誌プレゼント、大人の学び講座、七夕イベント、スライム教室や吹き矢大会を実施している。
- ・文化の森図書館を開館するにあたり、まきのはら塾と絡めるなど「学び」の実施を目指していたことから、工夫しながらイベントを実施していきたい。

##### ◎委員からの主な意見

（意見）開館式では、川崎小学校の図書委員も誇らしげに参加していた。開館式には菟間小学校の生徒も参加しており、広く知れ渡っていることが感じられリニューアルの注目度が高かったのではないかと思う。

（意見）相良には榛原の情報が入ってこない。図書交流館では学習室の利用など高校生の姿をよく見る。高校の学習室は静かな空間が好きな学生、勉強が好きな学生の利用が多いイメージがあるが、図書館はそうでない学生も来館できており、個人にあった空間があってよいと思う。

（意見）第三の居場所のように利用されていて良いですね。

（意見）皆が楽しみにしていた開館式で期待を持って文化の森図書館に来館している。花壇で水かけしていると楽しみにしていると声をかけてくれる。空間も含めて文化の水準が上がったと感じる。

（意見）勝間田地区の子どもから「自分で行けたら良い」、「バスが出ていたら行きたい」という声を聞く。静鉄バスは時間があわない。子どもたち自身で行ける方法はないか。

（意見）「いろ葉」のパーゴラが利用されていると感じているが、椅子が半分しかない点に疑問を感じる。もう少しあってもよいのではないか。

（意見）本が探しづらいという声もよく聞く。読みたい本にたどり着ける方法を検討し

てほしい。子どもたちが勉強できる空間の選択肢がようやくできたと思う。

(議長) 図書館から遠い地区に住んでいる子どものアクセスに対して将来的な展望はあるか。また、パーゴラと本が探しづらいという意見についてどのように考えているか。

(事務局) 本が探しづらいという意見について、資料2のアンケート結果からも承知している。一方で探しやすくなったという声もあり、図書交流館と合わせ検討したい。

(事務局) パーゴラに関してはもともと一脚づつの椅子を想定していたが、風が強いことを考慮しベンチの形にした。椅子の数という点では、芝スペースの丸テーブルを改修しベンチにした。パーゴラ自体はおおむね好評であるため、検討していきたい。

(意見) 「いこっと」には近くのスーパーがあるが、「いろ葉」では近くにない。昼食時に不便を感じる。高校生が窓際に並んで勉強していたり、楽しそうに図書館へ通う姿を見るともう少し要望も増えるのではないか。

(議長) 食事のとり方は課題にもなった。業者を施設内に入れにくいという実態もあるが「いこっと」に比べ使いづらさがないか。

(事務局) パーゴラや芝生で食事を取っている様子からルールを守ってくれているのがわかる。また、開館前の待機場所にもなっていると感じる。買う場所がないというのが現状であるが、産業祭などのイベントと絡め駐車場等で販売等できたらよい。

## 「いろ葉」利用者アンケートの結果について

### ◎事務局説明要旨

- ・アンケートは利用者の声を集めて今後の運営に役立てるため実施した。設問は年齢、「いろ葉」を知った経緯、在住地域、自由記述の4種類であり、133枚のアンケートを回収できた。
- ・年齢に関しては65歳以上の年配の方の回答が多かったが、18歳以下の利用者や生涯学習の利用者など想定していた利用者への回答も多くいただけたと考えている。
- ・文化の森図書館を知った経緯の回答では「広報まきのはら」という回答が多かった。市のLINEや図書館HPなどのデジタル媒体のほか、口コミという意見もあった。
- ・在住地域では榛原地区の回答が多かった。図書交流館とも違った趣を楽しんでいたと感じる。相良地区や市外の利用もあった。
- ・自由記述のあった122の意見を4つのジャンルに分けて集計した。資料に関する意見25件、施設設備64件、窓口接遇19件、その他14件。
- ・122件中78件、全体の63%は開館を歓迎する意見であり、その中には初めて利用したという意見も多かった。

### ◎委員からの主な意見

(意見) 開館時間9時の設定だと難しいか。自分が利用する際にも早く開館してもらえたらありがたいと感じる。

(事務局) 旧榛原図書館の開館時間が9時から17時だったことから開館時間については検討を重ねてきた。文化センターの生涯学習活動の教室は昼の部と夜の部、両方の利用者が図書館が使えるよう閉館を遅くした。朝は清掃や配送等、旧図書館より準備作業が増大したことから、開館時間を9時から10時にずらした。

(議長) アンケート結果を見ると9時開館希望の意見が多いと感じる。行政サービスを考えると、これだけ多くの意見があるなら検討してほしいと思う。

(意見) 開館前作業として図書館本来の作業に加え、図書館職員が館内清掃・トイレ清掃も行っているという事でしょうか。

(事務局) 一部委託で清掃が入る日もあるが、基本的には図書館職員が行っている。

(意見) もし可能であるならば市役所と一体となって契約し、施設管理業務は図書館以外の委託でやってもらいたいと感じる。

(意見) 人員や接遇等への対応について、「気軽な相談できる雰囲気づくり」、「職員間の連携」、「全ての利用者に丁寧な対応を心がけます」と回答しているが、実現は難しいのではないかと。なぜなら、これらの課題の根本は「職員数が適正かどうか」という点にあると思うから。

(意見) 貸室対応の兼ね合いは、外目にも大変さが伺える。職員からのアンケートと利用者アンケートを勘案しないと、より良い方向性を持っていけないのではないかと。

(議長) 良い図書館ができた今、開館時間の確保はわかりやすいサービス提供といえる。10時にせざるを得ないという見解についてもう少し説明が欲しい。

(事務局) シルバー人材センターには玄関やトイレ清掃など建物管理の面で委託している。図書館部分の書架はスタッフで清掃を行っている。また、「いろ葉」では市役所の障がい者雇用2名に、朝の時間館内清掃と開館準備の一部をお願いしている。清掃には1時間ほどかかり、ブックポストの処理や予約の回収、配送の実施、その他の準備を考えると人数的にも9時開館は厳しい。また、清掃等の外部委託は費用確保も難しい。

(議長) やはり「適正な人員配置」という意見の通り人員不足でサービスに手が回っていないと考えられる。図書館としての評価が高い今が人員増のタイミングではないかと。

(意見) 9時半の開館ではどうか。近隣市町では吉田町、藤枝市、島田市などが9時半の開館している。せめて30分でも検討してほしい。

(事務局) 実態として9時半ころに清掃が終わっている。

(議長) 単純に厳しいというだけでなく、サービスを考えると周辺地域の図書館も考えて改めて検討してほしい。強い希望として受け止めてほしい。

(議長) 合わせて受付に関する意見も出ている。受付の錯綜や事務室の課題に対しては以前から意見を出し続けてきたが、今後動かすのは難しいのか。図書館の魅力をさらに高めるためには受付や事務所整備も大切だと感じる。アンケートでは以前のように2階に貸室受付があった方が良かったという意見もある。今後の課題と感じているが、図書館側では改めてどう考えているのか。

(事務局) 以前から事務室の狭さへの意見があった中スタートした。開館して3か月が

たち確かに狭いという声を受け止めているが、一年間はやってみたい。

(意見) 一年という回答だが、行政としては迅速な対応を求めたい。事務室の問題は「利便性が悪い」という課題であり一年を見なくても早い対応が必要ではないのか。

事務室の課題の一つには安全性の問題もあった。複数職員のいる県立中央図書館でも安全性の課題があり、呼び出しベルを押す対応をしている。苦情や行き違いによるトラブルの危険性を回避する意味で一年またずに利用者の声を聴き対応してほしい。

(教育長) 社会教育課で事務室の課題は話し合ってきた。一年との発言ではあったが、事務局でも一年後の検討では遅いということは認識している。どのようにしたら解決するのか課題となっており、それらを乗り越え、十分に検討した上での対応をすべきだと考えている。再度修正した結果やはり不都合が多かったというわけにはいかず段階を経て移行していきたい。もちろん大きな課題であると捉えており、改善の余地もあると思っている。

(意見) 窓口の一体化は利用者目線からすると違和感がある。図書館カウンターだと思って来館した際に貸室窓口の職員・管理人がいると混乱する。アンケートの意見通り多くの利用者が違和感を感じていると思うので、解消できるようお願いしたい。

(意見) レファレンスしづらいという意見もあった。本来的な図書館業務という面からも窓口の課題は検討して欲しい。

(議長) 窓口の課題は図書館の本質に関わる問題である。改めて図書館は個々の読書傾向や課題解決のための来館など個人情報に接する業務だということを認識してほしい。また、その課題解決は図書館職員の大切な任務である。教育長を始め事務局が問題意識を持っているのはわかるので、ぜひとも検討してほしい。

(教育長) 早めに解決できる方向で進めたい。協議会としての意見は重く受け止める。

(意見) 学校の宿題で図書館に来館した際、図書館で思っている本が見つからなかった。総合学習や生活科に関する資料の蔵書を増やしてほしい。「いこっと」のみ所蔵があり「いろ葉」では求めている資料がなかったという事例もあった。

(議長) どの図書館でも蔵書の希望はある。総合学習で使用できそうな資料は複数冊そろえてほしい。

(事務局) 蔵書数増加希望はアンケートからも把握している。なるべく両館で同じ資料は持たないように調整しているが、調べ学習等に関する本は副本を持つという方針を出している。今後も充実を図っていきたい。

(意見) 中学校の先生が学校貸出の際に検索システムについて「怖い本」などのテーマごとに資料を紹介されていたことで、興味関心を引くことは子どもの読書の幅を広げる意味で良いと評価していた。評価を受けた事例に関してさらに発信してほしい。

(議長) 牧之原市は特別な検索システムを持っているのか？

(事務局) 牧之原市ではオンラインシステムを令和3年度から供用開始した。他市町でも類似の機能等はあるが、情報発信が不足していた部分があったかと思う。今回意見を受けて学校でもそのような利用をしていただけていると知ることができた。

(意見) 利用者からの評価、良いことなどの意見を広報等で紹介していけたらよい。

(意見) アンケートはどのようにフィードバックするのか。

(事務局) まず、社会教育課全体で共有し対応を検討する。その後、図書館協議会で報いただいた意見・回答は館内掲示や図書館HPで公表する。どのような意見を反映していくかまで含めて周知していきたい。

(議長) コピー機は要望が強いように感じた。著作権の問題などがあると思うがどのように総括するか。

(事務局) 図書館資料の複写は今後も著作権の範囲内で行っていく。アンケート意見は「以前は可能だった持込資料のコピーが出来なくなった」と捉えている。図書館の要望というよりは貸室業務の方の意見であり、社会教育課全体で共有したい。

(議長) アンケート 56 番の「市民課への図書館資料提供」といったという意見に対して事務局はどうとらえているか

(事務局) 出張展示といった形で実施している自治体がある。アンケートにあった市民課だけではなく講座開催時に出張展示を行うなどサービス展開の検討をしたい。

(意見) 56 番の意見に関しては図書館職員よりもその実施したい課が主体となって動くべき点だと思う。資料を使用したい場合なども主体となる課が動けば図書館職員が出向く必要がなくなる。

(意見) 32 番の料理の展示の工夫。新しい発見があることは図書館の大きな醍醐味である。良い評価をいただいたと感じた。利用者を飽きさせない展示は大事である。一定期間の集中した展示や玄人好みの展示も楽しいのではないか。利用者には良い発見をしてほしい。

(意見) 32 番や 122 番の意見は暖かくて良い意見だと思う。

(意見) 32 番の藤田まさと氏の書籍などは紹介されるまで知らなかった。もっとアピールしてもよい。

(意見) インスタグラムの発信は個人的にも好みに素敵だと感じている。

(意見) 高い評価もあるのでぜひ継続してほしい。

## 牧之原市子ども読書活動推進計画の改定について

### ◎事務局説明要旨

- ・平成 19 年に策定した本計画は、期間終了から 10 年以上経過している。
- ・一次計画における図書館の取組はおおむね達成できていると捉えている。
- ・第二次図書館基本計画では基本方針「子ども読書活動の推進」の箇所子ども読書推進計画に触れている。
- ・計画は社会教育部が事務局として計画案を作り、推進委員会の中で意見交換をしながら内容を詰めていく。
- ・今年度から来年度にかけて計画改定を行っていく。今後、市民アンケートの実施を考

えており、子供たちの置かれている状況も調査したい。

・計画期間が終了してから相当時間期間が空いており、ゼロベースで作っていく。図書館協議会で出された意見も参考にしたい。

#### ◎委員からの主な意見

(意見) 実施予定の市民アンケートは子どもたち向けに実施するのか、

(事務局) 子ども及び保護者が対象となる。

(意見) 児童・生徒に直接話を聞く機会はあるのか。図書委員では本を読んでもらうにはどうすればいいか考えている。図書委員にも意見を聞いてもらえれば、子どもたちもやりがいを感じてもらえるのではないか。

(議長) 子どもの声を聴いてアイデアを反映して行ってほしい。学校を通じて意見をまとめる、生徒たちを集めて意見を募るなど、今後の参考にしてほしい。

(事務局) 学校での取り組みや成果を発表してもらうなど、相互にメリットのあるように実施できればよいと思う。

(意見) 話は逸れるかもしれないが中学校の読み聞かせを実施している中で、教員の働き方改革で朝の読み聞かせ時間が無くなった。本の好きな生徒は進んで読書するが、逆に朝の読書時間以外全く読まない生徒もいる。教員を守る立場から働き方改革を進めた結果だとは思いますが、読書推進という面からも教育現場で読書への導きを考えてほしい。

(意見) 教員が8時前から勤務するのは負担が大きいという判断で朝の時間を遅らせることになった。朝読書と同時に合唱の時間も削っている。本を読む機会が減ったのは確かだと感じている。学校で本に触れる時間を作るのは現状難しい状況。個人的には朝読書の時間が減ることはとても残念に思っている。

(意見) 学校の先生はやむを得ないと現状を受け入れているように感じるが、ボランティア目線からはとてもとても残念に思っている。

(意見) 朝読書の効果や評価はあったと思うが、この評価をせずになくなってしまった。事務局から読書率に関する説明もあったが、読書率の効果は朝読書からきているのかもしれない。効果の検証もしてほしい。またこのような意見を受けて委員に高校の先生が入っても良いかもしれないし、管理職の方が現場の活動の声を聴けるのなら校長先生が入ってもよいのではないかと思う。

(議長) 読書に親しむ気運が高まり、県下100%の朝読書を実施した際には、静岡の取り組みが注目されていた。朝読書のスタート時は、職員会議の時間を活用する意味合いで広がった。

(意見) 現在では職員の多忙化を防ぐために簡略化し、会議も減らしている。教師は生徒につくようにしている。

(議長) 働き方改革で、まさに生徒に寄り添っている。

(教育長) 限られた学校の時間の中で授業や取り組みをどう設定するか、経営方針と共に議論して行ってほしい。基本計画や読書推進計画などを受けて学校側がどう対応する

か、様々な意見をもらえることはとても大切だと感じている。

(意見) 中学校の図書室には「時間がない」から生徒が行かないようである。部活時間も短くなり、子どもたちも忙しく図書室に行く時間がない中、ボランティア目線から想いを発言させてもらった。

(教育長) 今のように意見を聞いて受け止め方針を決めたい。さらに方針が決まったところでフィードバックしたい。学力調査の結果が出たことに関連させ、読書以外の面からも学力を伸ばすなど、繋がりがいいのかとも感じた。

(意見) 読書イコール学力とは考えていない。ただ読書は子供たちの人生を豊かにするものだという基本的な意見は揺るがない。

(教育長) 現在のテストは読解力が必要で、普段から文字と触れ合っていないと解けない。本と触れ合う機会を意図的に持った方が良いかと思う。

(意見) 朝読書は「読まなければいけない」ために読書をする時間だったとはいえ、普段読まない本も読めたように思う。また、友人が読んでいた本を読んでもという経験もあった。やはり朝読書を失くしたのはもったいない、ぜひ復活してほしいと感じる。

(議長) 具体的に読書計画の策定に関わってきた目線からすると、牧之原市は委員の構成人数が少ない。例えば、島田市では保護者代表・PTAの方が入っていて、保護者の声が反映された。読書アドバイザーからも貴重な意見を多くいただいた。また、校長会代表の方からは、管理者目線から学校側の意見も出してもらい有益だったと感じている。さらに行政が入る事も大切であり、社会教育課だけが孤軍奮闘しても、出来上がった計画が多く課から支援されないと市全体の読書計画にならない。牧之原市らしい読書計画を作り上げるためにも今後の見直しの中でメンバー補充を検討してほしい。

(事務局) 構成メンバーに関する意見はもっともだと思う。現場意見の吸い上げは必要であり、市民アンケートに加えて教員や保護者向けのアンケートなども行いたい。

(議長) 不読率の説明もあったことから高等学校の教員も入ってほしいと思う。

(事務局) 高校の校長先生が出席される社会教育委員会で相談し意見を募れたらと思う。

(議長) これから膨大な作業が待ち受けているので、一つの部署に負担が集中しないような姿勢が必要だと思う。

(意見) 現状以上に大変になるので、庁内各担当からなる作業部会を設置したらどうか。

(議長) 下部組織の設置には賛成したい。島田市でも7名の作業部会が原案作りを行い、それをもとに練っていった。パブリックコメントを実施するなど作業量は多かった。

(議長) 図書交流館に加え、文化の森図書館という二つの素晴らしい図書館ができた。とても良いことである。教育委員会をあげて取り組んでもらったことで立派に作ってもらえたことに感謝を伝えたい。

以上